

第3回生駒市医療費等適正化検討部会会議録（要旨）

1. 日時 平成23年12月26日（月）午後2時から

2. 場所 生駒市役所 401会議室

3. 出席者

（委員）

伊木雅之部会長、関本美穂委員、北岡有喜委員

（事務局）

松本国保年金課長、尾山健康課長、田中国保年金課長補佐、近藤健康係長、小林国保係長

4. 議事内容

（1）前回のまとめ

（2）医療費の分析と公表について

（3）その他

5. 審議案件

【案件1】 前回のまとめ

- データとしては、国保連のレセプトデータ、NTTデータのジェネリック利用差額通知によるデータ、国のレセプトデータベースのデータがある。
 - 国保連のレセプトデータは仕様についての資料があり、NTTデータについては契約をしてから仕様について確認できる。
 - 国保連のデータの仕様をみるとNo. 74に疾病コードがある。
 - レセプトごとにファイルとなるため1人につきいくつものファイルがあり疾病コードが複数となる。ただし、病名と診療行為はひもづいていない。レセ電には実施日がない。
 - 国のデータベースは、入院のDPCデータでE・Fファイルに実施日があり、病名、行為、実施日がひもづいている。
 - 全国データが中央会では前年度比較ででている。生駒市では、支払いベースでは可能。（事務局）
 - 前年比、前月比があるとよい。
 - 1人当たり、1日あたりでできるか。
 - 月報データは入院、入院外などがわかるが、4ヶ月後となる。
- （関本委員の分析結果）
- 12市との比較で人口、年齢分布による調整をし、平均値との比較を行った。
 - 受診者は、4%（1.04）多く、レセプト件数は12%（1.12）多い、受診日数は31%（1.31）多い。
 - 1受診者あたりのレセプト件数は8%（ $1.12/1.04=1.08$ ）多く、1受診者あたりの受診日数は26%（ $1.31/1.04=1.26$ ）多く、1レセプトあたりの受診日数は17%（ $1.31/1.12=1.17$ ）多い。
 - 件数、日数に加えて医療費の額をつけるとよい。
 - 年齢構成調整前と後で2段階で比較すると生駒市が多いが、年齢調整しても多いとなる。
 - 柔道整復師団体コードがあるのでの柔道整復分もおそらく同様にできる。
 - 毎月単位でだと凸凹になる。3か月単位ぐらいだとデータが安定する。年間でみてもよい。
 - 外来医療費が高い理由付けとして出せる。

- 4ヶ月遅れでいいのであるデータを可視化していく必要がある。
- わかり易く手間がかからない方が継続できる。
- 受診日数が多いのだがどう評価するのか、どう指導していくか。
- 患者が医師から来なさいと言われていないのか。
- 複数受診をどうしていくか。他の12市と単純に重複受診を減らす。かかりつけ医について啓発する。
- 他市平均14回/月に対して、生駒市は16回/月で2回減らすことで再診料が12%減ると医療費がいくら減ると説明できる。
- 年齢調整なしの方が大きめにでる。
- 診療所が多いということはありませんか。診療所が96、薬局が43ある。(事務局)
- 医師会の反発を受けないよう、うまく巻き込まないといけないので国保が危ないというところからはじめていくとよい。
- 国保連からのデータ提供については、1件につき2.4円必要。
- 比較は1年に1回。動向はリアルタイムでよい。
- 医療費が1%の伸びで7千万円上がったからおおよそ1/3が国保負担となるといえるが、2年前の精算分等の不確定支出がありはっきり分があります。(事務局)
- 医療費に対して、国保税の補填率を出すと簡単ではないか。
- 執行額と実収入は月単位というわけではないので支払ったものについて予算だと概算値であるが、数字はだしてしまうと一人歩きするため難しい。(事務局)
- 今は、国保税を値上げし、単年度でみると収支均衡となっているが、累積の赤字も残っており、医療費が伸びると累積赤字となっていくと考えられる。(事務局)
- 実数でだして、前年度の予算ベースと比較して出すとわかりやすのではないか。
- 予算ベースでは出せる。
- 適正受診等についてミニ冊子に掲載してもどこまでみてもらえているかわからない。(事務局)
- 掲載したものをみて答えてもらうアンケートを行い、1年後に同様のアンケートをしてはどうか。
- 健康づくり推進員で聞いてもらって返してもらってはどうか。
- 健康づくり推進員に知ってもらった方がいい。
- 健康づくり推進員に調査してはどうか。「診察券を何枚もっていますか。」など
- 100人から10人ずつ伝えてもらったなら1,000人になる。
- 民生委員さんは活動されているか。何人いるか。
- 公開講座を開いてはどうか。
- 活動に対して、表彰をおこなう。例えば、アンケートを100枚配れば市長から感謝状をだすなどどうか。
- 地域共通診察券、200人位
- 中央公民館は900人と多い、コミセンで270人収容できるのでよいのでは。
- 9月の第2土曜日にイベントを行っていて、色平先生に来てもらいました。寿大学の学習の一環として同日に講演会を開いている。
- 宇治市の三茶んフェスタにおいては、民生委員や、健康●●員の人などが一緒になって、講演会、アンケートを実施したり、共通診察券申し込み受付を行った。
- 3月くらいまでにまとめ、パンフレットにして配る。

- 来年度の保険証を3月に送るので同封できる。
- かかりつけ医についてHPに掲載する。医師会のHPにリンクすると医療機関の検索ができる。
- 栃木県医師会のHPでかかりつけ医について記載があり、その中に相性について書き込みがある。
- ポケットカルテHPの病院検索とリンクするか、医師会のHPがあればそことリンクしたほうがよい。生駒地区医師会の検索リンクにある分でもよい。
- 転入率はどれぐらいか。ずっとすんでいる人は心に決めている。

(まとめ)

- ① データとしては2つあり、中味を見て使っていく。
- ② 外来医療費が高いという意識付けを行う。
- ③ HPは医療費が高い、受診回数が多い、かかりつけ医を持ちましょうという内容で考える。
- ④ 国保において、複数受診が多く、かかりつけ医をすすめていく。
- ⑤ 保険証発送に広報用チラシを作成し、同封する。内容はHPのような内容。
- ⑥ 月の支払いベースで情報提供を行う。
- ⑦ 医療機関向けの情報発信を考えていく。
- ⑧ 年度末に報告書をつくる。
- ⑨ 今後の人材育成ということで、健康づくり推進員を対象に講演会とアンケートを実施。講演会に参加してもらった人にアンケートに答えてもらう。(2/15までに)
- ⑩ 健康づくり推進員へのアンケート、医療の使い方を提示し他の人に伝えてもらう
- ⑪ 健康づくり推進員は、4月に総会を行いその後募集し、募集時に研修を行う(5,6月頃)
- ⑫ 2月にアンケートを行うので次回の1/30の会議には決めていく。
項目案を次回までに考える。例えば、かかりつけ医、かかり方、国保の運営など。
- ⑬ 講演会の講師は、この部会の委員で行う。
- ⑭ 健康課から健康づくり推進員の団体に了解をとってもらう。
- ⑮ パンフレット案を作成する。